

都市再生整備計画 事後評価シート
長井地区

平成29年3月

山形県長井市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県	市町村名	長井市	地区名	長井地区		面積	743ha
交付期間	平成24年度～28年度	事後評価実施時期	平成28年度	交付対象事業費	1,379.24(百万円)	国費率	0.400	

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業	道路新設(市道台町北線(仮称) 410m)、道路改築(市道桜堤防線 100m)、道路改築(市道神明野川線 150m)、石畳(市道堀切桐町線 290m)、かわと道の駅(観光交流センター 975㎡) 【次期都市再生整備計画で整備 : 路面整備・消雪施設(市道本町東線 460m)、歩道整備(市道本町西1号線 180m)、広場整備(もまちな広場 1,500㎡)、石畳(市道舟場清水町線 200m)】							
	提案事業	水路整備(消流雪用水配水路(大樋川) 200m)、事業評価(長井地区 1式)、ワークショップ開催(本町、駅前、大町、かわまちづくり協議会 4協議会) 【次期都市再生整備計画で整備 : 景観(修景)整備支援(本町地区、あら町地区、十日町 1式)】							
	当初計画から削除した事業	事業名	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	提案事業	なし		-		-			
新たに追加した事業	基幹事業	①道路改築(市道海田線 120m) ②公園整備(最上川緑地公園 44,400㎡) ③広場整備(長井駅前広場整備 14,800㎡) ④歩道整備・石畳・消雪(市道神明野川線 80m)		①観光交流センター施設と一貫した整備を行うため ②フットパス周辺環境整備に事業転換を図るため ③計画予定地において別事業を行うため ④観光交流センター周辺道路との整合を図るため		目標・数値指標への影響はなし			
	提案事業	①道路標識(国道287号線 5基) ②公園整備(宅地開発公園 991㎡) ③公園整備(寺東いちよう公園 3,400㎡) ④情報板(観光交流センター 3基) ⑤街路照明灯(一般県道長井大江線 6箇所)		①(別事業で県が施工) ②宅地開発において造成を行う公園整備を事業として追加 ③公園事業計画を検討した結果事業を追加 ④観光交流センター整備事業の精査の結果、施設からまちなかへの案内看板等の設置を追加 ⑤堀切桐町線整備の一連のものとして追加		道路標識の設置により来訪者への案内・周知等を促すものとなるため、また、観光交流センターからまちなかへの案内看板等の設置によりまちなかフットパスへの回遊性を促すものとなることから目標値を上方修正			
交付期間の変更	当初	平成24年度～28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-			
	変更	-		-		-			

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	交流人口(観光人口)の減少率	%	-1.6	H22	-0.7	H28	●	-1.7	△	あり なし	東日本大震災の影響が大きき要因となり目標の達成には至らなかった。	平成29年4月
指標2	小桜館利用者数	人	9,412	H21	13,983	H28	●	7,293	×	あり なし	通常の小桜館の利用者は、ほぼ同じだが観光客やイベント開催が減ったため達成には至らなかった。	平成29年4月
指標3	観光ボランティアガイド案内者数	人	7,002	H22	8,752	H28	●	6,532	△	あり なし	フットパスウォークの開催などを実施してきたものの、目標の達成には至らなかった。	平成29年4月

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	観光交流センターで提供する新メニューの開発件数	件	0	H23	/	/	●	10	/	/	市内への観光客の増加による中心市街地の活性化への貢献が期待されている。	
その他の数値指標2	建築確認申請面積	㎡	15,553.26	H23	/	/	●	24,625.11	/	/	定住促進、まちなかの人口増、住宅建築による地元経済の活性化が図られた。	平成29年4月
その他の数値指標3	フットパスウォーク参加者数	人	105	H24	/	/	●	189	/	/	フットパスウォークが年を重ねるごとに参加者数が増えてきている。	

4) 定性的な効果発現状況

- ・市の重要事業の推進に向け、テーマごとに市職員と市民の協働によるプロジェクトが立ち上がり、市民参加型のまちづくりが進んでいる。
- ・最上川河川緑地公園の花壇の里親となって植栽や水やり、除草作業を行う「フラワーボランティア」や「マイロードサポート事業」として国道や県道の清掃作業、植栽(花のまちづくり推進事業)に取り組む住民や団体が増えている。
- ・前計画時より市民有志で立ち上げたまちづくり協議会が2つ追加され、市民のまちづくりに関する意欲がさらに醸成された。

5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	住民参加プロセス	モニタリング	住民参加プロセス	
	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
		長井市の再生と未来を語るまちづくり意見交換会等の開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	「市民全員参加型のまちづくり」を目指し、より充実した住民説明・意見交換会を開催していく。
		「本町・中央まちづくり協議会」、「長井駅前通りまちづくり協議会」、「長井市宮・小桜街区まちづくり協議会」、「長井市かわまちづくり推進協議会」開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	各協議会と市民の主体的な活動に任せ、市は後方支援に徹する。

様式2-2 地区の概要

長井地区(山形県長井市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
<「水と緑と花のまち」にふさわしい景観に配慮したまちづくり> ・水と緑と花のまちにふさわしいまちなみの整備 : 自然や歴史的施設等を活かしたまちなみを整備し、まちなかの賑わいづくりを推進 ・人と人がふれあうまちづくり : 市民やまちを訪れた人達がふれあい、魅力を感じるまちづくりの推進	交流人口(観光人口)の減少率 単位: %	-1.6 H22	-0.7 H28	-1.7 H28
	小桜館利用者数 単位: 人	9,412 H21	13,983 H28	7,293 H28
	観光ボランティアガイド案内者数 単位: 人	7,002 H22	8,752 H28	6,532 H28

計画区域(全体図)

計画区域(拡大図)

■基幹事業
 高質空間施設
 石畳 1路線: L= 290m
 街路照明灯 地区内: 6箇所
 凡例: ■
 【次期都市再生整備計画で整備】
 石畳 1路線: L= 200m

■基幹事業
 道路: 道路新設・改築など
 新設 1路線: L= 410m
 改築 2路線: L= 250m
 凡例: ■
 【次期都市再生整備計画で整備】
 路面整備・消雪施設
 1路線: L= 460m
 歩道整備 1路線: L= 180m

■基幹事業
 公園: 公園整備
 宅地開発公園 A= 991㎡
 寺東いちよう公園 A= 3,400㎡

□提案事業
 地域創造支援事業
 水路整備 1路線: L= 200m
 凡例: ■
 フットパス周辺環境整備

■基幹事業
 地域生活基盤施設
 情報板(観光交流センター) N= 3基
 【次期都市再生整備計画で整備】
 広場整備(もとまち広場) A= 1,500㎡

□提案事業
 事業活用調査
 事業評価
 地下水調査

□提案事業
 まちづくり活動推進事業
 ワークショップ開催 4協議会
 【次期都市再生整備計画で整備】
 景観(修景)整備支援 3地区

○関連事業
 街路整備事業 1路線: L=390m 凡例: ■
 かわまちづくり支援事業(最上川河川緑地 L=6,000m)

まちの課題の変化

【達成されたこと(課題の改善状況)】
 ○道の駅としての機能(駐車場、休憩所、トイレ、道路情報、観光情報の提供など)を備えた観光交流センター「川のみなと 長井」が新設整備され、案内所が設置されることで、市内への交流人口増加への期待が高まっている。
 ○景観に配慮した良質で安価なまちなかの住宅地「花咲きタウン“みずはの郷”」が整備され、全30区画中29区画において住宅の建築・入居が進み、定住人口の増加が図られている。また、周辺地域への波及効果もあり民間の優良で安価な宅地開発も増加している。
 ○市民や来訪者にとって安全で快適となるようフットパス周辺の環境整備や住宅地における消雪施設の整備を行ったことにより、道路環境の改善が図られ、市民生活の安全性が高まりフットパスを利用する人や機会が増えている。

【残された未解決の課題】
 ○既存の観光資源、「あやめ公園」の観光交流人口の落ち込みが特に激しいため、観光交流人口復活のための対策が必要である。
 ○駅周辺や歴史的な町並みが残る地域など、まちなかの観光交流人口の増大を目的とした施設の整備や、中心商店街へ買い物客を引き戻すための、まちの魅力を高められる都市機能がまだ不足している。
 ○高齢者や児童の安全を確保するため未整備な路線を改修したり、フットパスを利用する人達の利便性を高めるために周辺環境の充実を図るなど、道路等生活基盤(バリアフリーの歩道など)の整備が必要な箇所がまだ多く残されている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

【効果を持続させるために行う方策】
 ○観光交流センターの活用 : 市民直売所や地場産品の紹介スペースを併設する。また、市内の地域情報や歴史や文化を伝える場所、フットパスを利用したまち歩き・最上川散策の拠点といった活用を図る。
 ○まちなか住宅地の充実 : 「花咲きタウン“みずはの郷”」に続き、安価で良質な住宅地の供給を目的とした宅地開発事業の企画・立案を検討していく。
 ○フットパスルートを利用したまち歩き : まち歩きイベントの企画を増やすとともに、フットパスルートを歩く人達が安全で快適に利用できるような環境の整備、情報の提供を行っていく。

【改善策】
 ○観光資源の再整備 : 観光資源、施設の再整備を図るとともに、新設整備された観光交流センターと連携した観光資源と受け皿づくりを行っていく。
 ○まちの魅力を高められる都市機能の充実 : 市民が利用しやすく魅力を感じられる都市機能(道路や公共施設、商業、サービス産業等の集積)を整備していく。
 ○消雪施設の整備 : 歩道や道路の整備が不十分である箇所について、中、長期的な整備計画により改善を図る。